東日本大震災　復興フォト＆スケッチ展　２０１７作品集

東日本大震災
復興フォト＆スケッチ展
2017作品集

街に、ルネッサンス

UR都市機構

一日も早い東北の復興へ
全力で取り組んでいます

復興の歩み

～ 忘れない、明日へ進む ～

ごあいさつ

東日本大震災から7年を迎えました。

UR都市機構は、発災直後から被災地へ職員を派遣し、復旧・復興支援に取り組んでまいりました。

「東日本大震災 復興フォト&スケッチ展」は、新たな住まいでの生活や、なりわい再建の様子、

まちづくりの現場、まちに戻りつつある活気、震災後も変わらない四季折々の風景など、

復興への歩みを広く発信することで、全国の皆様に被災地の様子を知っていただくとともに、

被災された方々にとって希望を感じられる場になればという思いで始まり、今回で4回目の開催となりました。

今回、テーマを「復興の歩み ～忘れない、明日へ進む～」とし、皆様の想いが込められた作品を

全国から多数お寄せいただきました。

当フォト & スケッチ展がその想いを多くの方々につなぐことができたら幸いです。

多くの皆様からのご応募に、心からお礼申し上げます。

目次

UR 都市機構の復興支援 04

フォト&スケッチ展概要 06

審査員プロフィール 08

受賞作品・応募作品の紹介 10

- 復興の歩み大賞 フォト 12
- 復興の歩み大賞 スケッチ 14
- 復興の歩み賞（池邊 このみ / 池本 洋一 / 一之瀬 ちひろ / キン・シオタニ / 西田 司 / UR 都市機構 選） 16
- 入賞 28
- 応募作品 36

審査の風景 40

■ 受賞者および有識者審査員の敬称は省略させていただいております。

■ 受賞作品の紹介内容は原則下記の順で掲載しております。
作品タイトル／氏名／撮影・スケッチの対象場所（県、市町村）／メッセージ

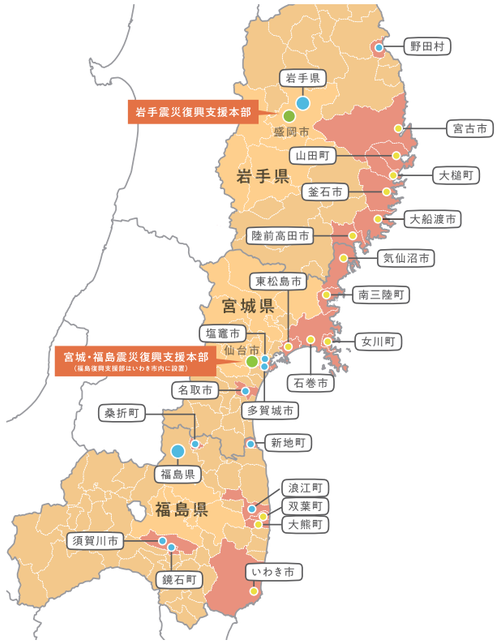
■ 応募作品はトリミング加工の上、掲載しております。

UR 都市機構の復興支援

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は未曾有の被害をもたらしました。
UR 都市機構は UR 賃貸住宅や応急仮設住宅建設用地の提供、応急仮設住宅建設のための職員派遣など震災当初から支援を開始。
続いて、被災自治体における復興計画策定支援等のため職員派遣を行いました。
現在、25 の被災自治体と協定等を締結し、復興まちづくりの支援を行っています。

復興支援 MAP

※平成30年1月現在



- 震災復興支援本部
- 復興支援事務所を設置する自治体
- 復興まちづくりを支援する自治体

岩手県下閉伊郡山田町
町営山田中央団地

岩手県陸前高田市
高田地区

宮城県気仙沼市
市営気仙沼駅前住宅

宮城県東松島市
野蒜北部丘陵地区

福島県いわき市
薄磯地区

福島県いわき市
県営北好間団地

復興まちづくり支援の歩み

東日本大震災発生

平成 23 年 4 月	平成 23 年 7 月	平成 23 年 11 月	平成 24 年 4 月	平成 26 年 4 月	平成 28 年 7 月	平成 29 年 4 月
岩手県下への派遣開始	宮城県下への派遣開始	福島県下への派遣開始	現地に専任チームを配置	仙台・盛岡に震災復興支援本部を設置	工事量･業務量がピークである中、事業進捗にあわせて体制を整備	事業進捗にあわせて体制を確保
URの現地支援体制 17 人	37 人	59 人	172 人	400 人	460 人	397 人

いわきニュータウンに建設された
応急仮設住宅

権利者約 1,800 人を対象に
約 50 回の住民説明会等を実施
(宮城県牡鹿郡女川町)

大量土の搬出のため設置されたベルト
コンベア [平成 27 年 9 月作業完了]
(岩手県陸前高田市)

南三陸さんさん商店街開業
[平成 29 年 3 月開業]
(宮城県本吉郡南三陸町)

復旧支援

UR賃貸住宅延べ 970 戸の提供
応急仮設住宅建設用地約 8ha の提供
延べ 184 名の技術職員を派遣

協定締結

25 の被災自治体との間で、
復興まちづくりを推進する
ための覚書・協定等を締結

事業計画策定

住民説明会や個別面談を通じて
住民の方々の意向を確認し、
個別地区の事業計画を作成

工事を加速し、一つ一つ着実に事業を進捗

津波被災地域における復興市街地整備事業では、整備を受託した約 1,300ha について、平成 29 年度末までに約 7 割が完成予定。災害公営住宅整備事業は、平成 27 年度までに要請を受けた 5,833 戸について、平成 29 年度末までに完成予定。福島県の原子力災害被災地域における復興支援については、国と連携し、大熊町、双葉町および浪江町で 3 地区約 117ha の復興拠点整備に着手

復興計画策定支援等

1 県 18 市町村に延べ 6 5 名の技術職員を派遣

体制づくり

沿岸部の 14 市町に現地復興支援事務所を設置

※平成 30 年 2 月時点

重ダンプによる造成工事 (宮城県東松島市)

女川駅周辺 (宮城県牡鹿郡女川町)

市営内の協住宅 (宮城県気仙沼市)

山口西アパート (岩手県大船渡市)

復興市街地整備事業

土地区画整理事業、防災集団移転促進事業などにより、
被災した市街地の嵩上げや高台新市街地の整備を行います。
UR 都市機構は被災自治体より委託を受け、
計画策定から工事発注・監理までフルパッケージで事業を進めています。

災害公営住宅整備事業

被災により住まいを失われた方、原子力災害により避難を余儀なくされている方のための公営住宅を整備します。UR 都市機構は被災自治体からの要請により、住宅を建設、完成後に自治体へ譲渡します。

復興まちづくりコーディネート業務の実施

被災自治体からの委託により、
UR 都市機構はまちづくりの実績や技術力を活かし、
復興まちづくり事業計画策定業務、工事発注支援業務等を実施しています。

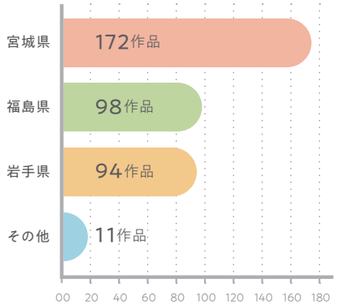
フォト & スケッチ展概要

東日本大震災復興フォト&スケッチ展 2017 は、復興への歩みを広く発信することで被災地の復興を支援するため、「復興の歩み～忘れない、明日へ進む～」をテーマとして開催しました。
応募作品は、復興を感じる場面を題材とした写真、またはスケッチとし、皆様の被災地や復興に対する想いを、タイトルとメッセージで表現していただきました。 応募資格は、できる限り多くの方々に参加していただくため、被災地にお住まいの方だけではなく、被災地を訪問された方やゆかりのある方等すべての方を対象としました（プロの写真家や画家の方を除く）。
約 3 ヵ月の募集期間を経て、154 名の皆様から、375 作品（フォト 354 作品／スケッチ 21 作品）のご応募をいただきました。
その中から、5 名の有識者審査員（以下、審査員）による審査とUR職員投票により、復興の歩み大賞 2 作品（フォト・スケッチ各 1 作品。審査員による協議により選定）、復興の歩み賞 6 作品（各審査員 1 作品。UR職員投票による最多得票 1 作品）、入賞15作品（UR職員投票による上位作品）を選出しました。なお、審査過程では作品の応募者名を無記名とし、写真やスケッチの内容に加え、タイトルとメッセージを含めた総合的な評価をさせていただきました。

スケジュール

2017年6月9日	開催予告
2017年7月1日	開催発表
2017年7月1日~9月30日	作品募集期間
2017年10月~12月	応募作品の審査［ UR職員投票審査→有識者審査 ］
2017年12月25日	審査結果の発表

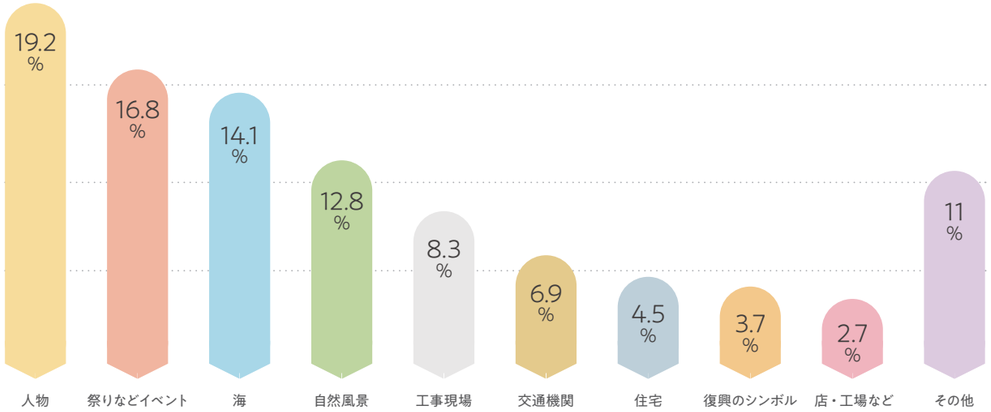
県別応募作品数（撮影・スケッチの対象場所）



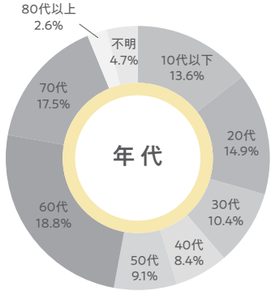
撮影・スケッチの対象として多く選ばれた場所

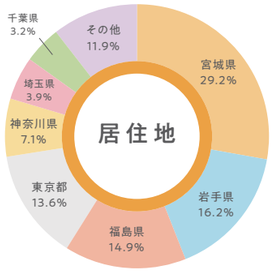
所在地	作品数		
宮城県石巻市	41作品	宮城県牡鹿郡女川町	16作品
福島県いわき市	33作品	岩手県大船渡市	15作品
宮城県仙台市	26作品	宮城県気仙沼市	15作品
岩手県宮古市	23作品	岩手県釜石市	14作品
宮城県本吉郡南三陸町	22作品	岩手県上閉伊郡大槌町	12作品
宮城県東松島市	19作品	岩手県陸前高田市	11作品
福島県南相馬市	18作品	福島県福島市	10作品

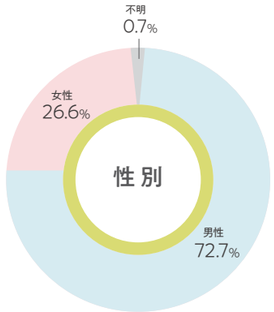
応募作品の分類



応募者の属性







審査員プロフィール

池邊 このみ氏

ランドスケーププランナー

千葉大学大学院教授、専門は造園デザイン学。千葉大学大学院博士課程修了、住信基礎研究所、ニッセイ基礎研究所等をへて、現職。2007年より3年、UR都市機構の都市デザインチームリーダーを兼務。学術会議連携会員、国土交通省社会資本整備審議会委員、文化庁名勝部門審議委員、国土交通省景観賞審査委員、陸前高田市文化財保全活用調査委員長、高田の松原復興祈念公園構想会議委員、都市景観大賞審査委員、都市公園コンクール審査委員等を務める。

池本 洋一氏

SUUMO編集長

株式会社リクルート住まいカンパニー不動産・住宅総合サイトＳＵＵＭＯの編集長。
１９９５年上智大学新聞学科卒業。リクルート入社後、住宅やリゾートの編集部などを経て２００７年都心に住む編集長、２００８年住宅情報タウンズの編集長。２０１１年より現職。内閣官房内日本版ＣＣＲＣ構想有識者会議委員、国土交通省既存住宅市場活性化ラウンドテーブル委員、環境省賃貸住宅における省CO2促進モデル事業評価委員などを歴任。現在、住まいのリフォームコンクール、リノベーションオブザイヤー、優良住宅部品（ＢＬマーク）認定などの各種審査員を務める。

一之瀬 ちひろ氏

写真家

東京生まれ。ICU大学院修士課程卒。作品を発表する傍ら、書籍、雑誌、広告の撮影に携わる。2014年 JAPANPHOTO AWARD受賞。LUMIX MEETS BEYOND 2020 BY JAPANESE PHOTOGRAPHER#3 (2015年 Yellow Korner Paris Pompidou/2016年 IMAgallery・六本木）参加。個展に「KITSILANO」(ニコンサロン銀座、2012)、「STILL LIFE」（ニコンサロン新宿、2016)、「日常と憲法」(TITLE荻窪、2016）など。写真集に『ON THE HORIZON』(2006)、『KITS ILANO』(2012)、『STILL LIFE』(2015)など。

キン・シオタニ氏

イラストレーター/文筆家

学生時代は貧乏旅行にあけくれる。
95年に全国の雑貨屋で発売された「長い題名シリーズポストカード」で注目され、多くのメディアにイラストや文章を提供。
近年は国内外でパフォーマンスを行うほか、テレビの旅番組「キンシオ」(tvkほか)に出演し、その独特の旅が人気を得ている。

西田 司氏

建築家

1976年神奈川生まれ。使い手の創造力を対話型手法で引き上げ、様々なビルディングタイプにおいてオープンでフラットな設計を実践する設計事務所オンデザイン代表。
東京理科大学、日本大学、京都造形芸術大学非常勤講師、大阪工業大学客員教授。
「ヨコハマアパートメント」で、JIA新人賞／ヴェネチアビエンナーレ日本館招待作品・審査員特別表彰、「ISHINOMAKI 2.0」で、グッドデザイン復興デザイン賞／地域再生大賞特別賞、島根県海士町の学習拠点「隠岐国学習センター」など。著書に「建築を、ひらく」。

総評

最初は非常に鎮魂というような重い作品が多く、年を重ねるごとに、だんだんと明るい雰囲気が伝わる作品が出てきたと感じられました。今回は若い人たちが喜びを表すような流行のスタイルの写真もあって、その様に撮れるというのはすごく喜ばしいことだなと思いました。また、復興が進んで行く中で、これまでの6年間を積み上げて来て、まだ、これから先も年月を重ねて完全復興に向かって行くという作品がありましたが、何らかの形でこれからも復興を見守っていければといいなと思っています。

ランドスケーププランナー　**池邊 このみ氏**

復興の嬉しさや雰囲気が感じられるものがたくさんありました。それらの作品にもいくつかの傾向があるように感じました。1つめは新しく橋が開通するなどのインフラの復興系、2つめは祭りや鯉のぼりのように生活の風物詩が戻ってきた系、3つめは初漁に出ていくなど街の経済が復興してきた系、4つめは街に暮らす人の笑顔系です。とても迷いましたが、3つめの経済の復興と4つめの人の笑顔が伝わる作品が、自分自身も元気をもらえる感じがして、それらの作品を中心に選びました。コンテストを通じて復興の歩みが記録されるという価値あるコンテストだと思いました。

SUUMO編集長　**池本 洋一氏**

復興はすごくむずかしいテーマだと思います。そんな復興の写真は、撮る時点で、撮るか撮らないかを選んだら、撮らないほうを選ぶ人もいるのではないかと思います。そのような中、撮った人の、向き合っている思いを感じた気がしました。作品の中には前向きに向き合おうとしている人と、まだ引きずっているものがあるというところに目を向けている人がいて、さまざまに描写されていました。審査での評価はとても難しかったですが、客観的に現状を捉えている写真に魅かれて選びました。

写真家　**一之瀬 ちひろ氏**

僕も何回か仕事で行かせてもらったことがありますが、今回の審査会で、復興にずっと関わっている審査員のみなさんの目線と同じように、色々と不満な部分やまだここまでしか復興していないという部分よりも、ここまできたとか、こういうふうになってきたという希望が見える面をどちらかというと評価したいと思いました。そういうところを応援したいので、審査ではそのような作品を選びました。また、審査会では、現実をもっと色々と見ている審査員のみなさんのご意見がすごく個人的に勉強になりました。

イラストレーター/文筆家　**キン・シオタニ氏**

写真やスケッチの中から非常に生きるエネルギーみたいなものを感じる作品が多く、比較的風景を表現した作品が多かったのですが、生き生きとした人の営みみたいなものがかなり伝わって来ました。作品に込められた「忘れない」という想いをしっかりと汲み取りながら審査させていただきましたが、今回、色々と復興の全体像が見られたことが、自分自身の今後の復興への取り組みにも大きく影響するのではないかという感覚を覚えました。

建築家　**西田 司氏**

受賞作品・応募作品の紹介

復興の歩み大賞 フォト

再 会

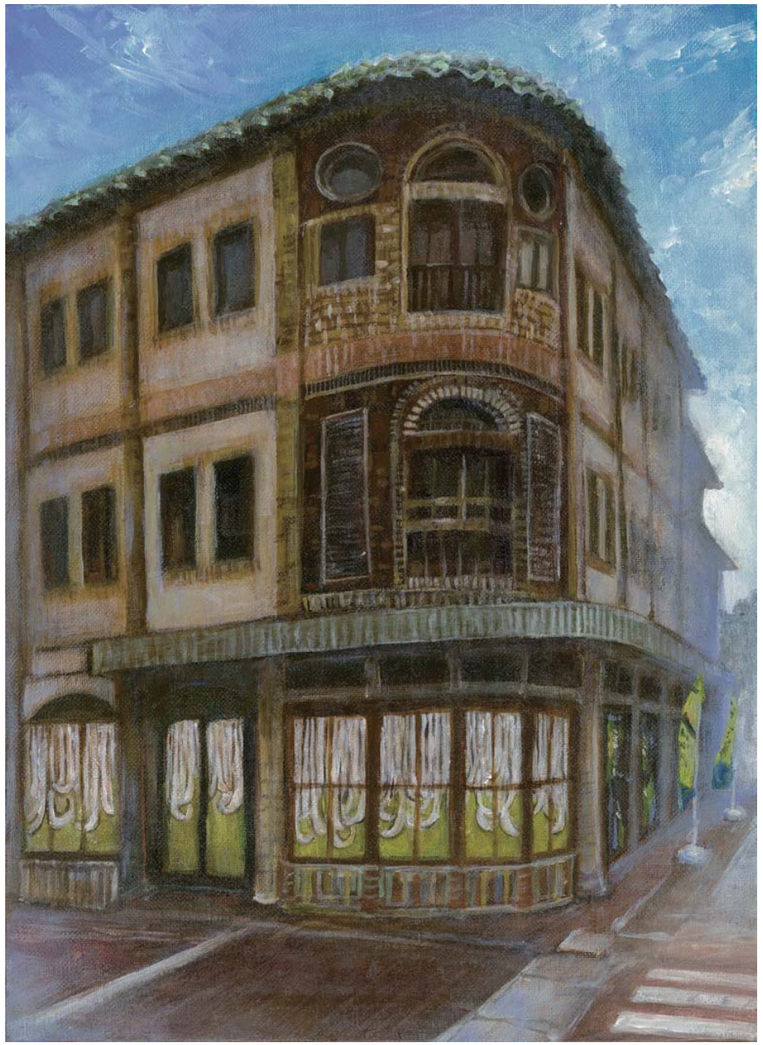
三浦 玲華

撮影場所：宮城県仙台市

小学校の黒板をメッセージボード代わりに使っていました。
また再会しようというようなコメントも多く幼少期からの繋がりを感じさせられました。

審査員コメント

何気ない黒板に書かれた文字に目をとめてシャッターを押したであろう一枚。再会というタイトルの表すように、震災が止めた時間を動かしていたのは、入れ替わりこの場所にきてメッセージを書いた子ども達だ。斜光の効果も相まり、そこに積み重ねられた時間の余韻を想像させ、積み重ねられた時間の奥行きを感じた。[西田 司]



復興の歩み大賞　スケッチ

共に歩む

久保 安加莉

描いた場所：宮城県石巻市

昔から馴染みのある旧観慶丸商店。
震災当時、津波の被害も受け、しばらく一階部分にオレンジ色の板が貼られていたのが印象的だった。修復工事を経て、アートイベント等の文化発信の拠点として、積極的に活用されている姿を見ると、とても頼もしく思う。これからも石巻をこの場所から末長く見守っていてほしい。

審査員コメント

出展作品の中で唯一の油彩画で、街に古くからある観慶丸商店の重厚な佇まいを、「震災後に修復工事をへて、石巻の文化の発信拠点として頼もしく思える」という作者のコメントがよく表れている作品だと思いました。僕はこの場所を知らなかったのですが、この作品を見て、実際に行ってみたくなりました。[キン・シオタニ]

復興の歩み賞（池邊　このみ選）

市街地一望

相原 徳

撮影場所：宮城県仙台市

日々のサイクリングコースの途中に井戸浦から仙台市街地を一望の風景です。震災時、周辺は、なにもかも無の状態でしたが、防潮林の植樹も終え、年月を重ね松林の成長を、正面の仙台大観音様が見守っています。この地から、市街地が一望できなくなる日が完全復興？と思うときでした。

審査員コメント

井戸浦からの眺めが、再生された防潮林の植樹により、一変した新しい風景です。居久根とは異なりますが松林の成長により、一面が緑になる日を待つ気持ちが伝わります。正面の仙台大観音様や少し雪をかぶった山々に囲まれた美しい松林、その成長を日本中の人達が見守っています。[池邊 このみ]

復興の歩み賞（池本 洋一選）

7年ぶりの歓声

遠藤 清作

撮影場所：福島県いわき市

いわき市の薄磯海水浴場で東日本大震災の津波で被害の大きかった同海水浴場が7年ぶりの海開きとなり、塩屋崎灯台を望む県内屈指の景勝地に親子連れや若者の歓声がようやく戻ってきた様子を捉えました。

審査員コメント

あ、そうか。いわきはフラガールのロケ地だったか。震災からしばらくその写真や映像を見ることがなかったから少し忘れかけていた。屈託のない若い女子たちのこの1枚からは「せーの、いぇーい」という声が聞こえてくる。元気をもらいに、久しぶりにいわきに遊びに行こうかなと感じさせる「観光促進効果」もある作品だ。[池本 洋一]

復興の歩み賞（一之瀬 ちひろ選）

海の方を見て何を思う

渡邉 啄磨

撮影場所：宮城県仙台市

震災遺構の荒浜小学校での風景です。2階の窓から海の方を見る5歳の孫を撮りました。この子にすれば初めて目にする風景です。すっかり瓦礫がなくなり、一面は緑に覆われています。防波堤が奥に見え、左手の方には避難の丘もあります。しかし、町としての風景は、まだ先のように思えます。

審査員コメント

震災から7年が経とうとしている今、新たな未来を描きたいと願う復興への想いとそれでも残り続ける震災の記憶の生々しさは、お互いが複雑に絡み合っていて、その心情は一言で語れるものではないと思います。この作品には震災で倒壊した小学校の建物、津波のため更地となった土地、そこに新たに現れた草原、震災の経験を持たない5歳の少女、といった異なる時間軸を持つ要素が重ね合わされるように映し出されていて、これはとても写真的な行為だな、と感じました。
撮影者の切り取った一枚の写真から、毎日私たちが目にする何気ない景色も、本当は簡単に理解することが難しい複雑な要素のつながりで成り立っていることに気付かされます。[一之瀬 ちひろ]

復興の歩み賞（キン・シオタニ選）

一本まつとクレーン車

菅原 ゆい

描いた場所：岩手県陸前高田市

一本まつよりクレーン車の方が高く見えました。
一本まつへのみちはフェンスだらけで、まがりくねっていてとおかったです。

審査員コメント

7歳の子が描いてくれたこの絵は、大人にはできない、心で描いた作品で、何回も重ね塗りした色鉛筆から楽しんで絵を描く様子が伝わってきます。
そしてコメントの「一本松よりクレーン車の方が高く見えました」という文と女の子の笑顔からこれから先への気持ちを勝手ながら感じ取りました。[キン･シオタニ]

復興の歩み賞（西田 司選）

明日もまた「ココ」で

日野 大

撮影場所：宮城県石巻市

トヤケ森山（馬っ子山）からの風景です。
石巻を一望できる「ココ」は石巻に来る時は必ず立ち寄る場所です。
のどかな景色と復興の様子、そのどちらも見ることができます。
明日もまた「ココ」で。

審査員コメント

まちを見下ろすアングルの先に広がる石巻の復興。空と大地に切り取られたこの場所からの風景は、季節や時間とともに刻々と変わっていく。日常的に暮らしているまちを、ちょっと俯瞰してみると、自然の移ろいとともに復興の移ろいがあわせて感じられる構図が素晴らしい。
タイトルの（明日もまた「ココ」で）に込められた、未来への期待に共感した。[西田 司]

復興の歩み賞（UR都市機構選）

7年目の航空祭

相沢 開

撮影場所：宮城県東松島市

地元の人をはじめ、全国から4万人以上の来場者を迎え、震災から7年ぶりに松島基地の航空祭が執り行われた。晴れ渡った、抜けるような青空にブルーインパルスのハートがとても綺麗で、来場者も大満足の一日となった。

UR都市機構の職員投票により最多得票を獲得した作品です。

入賞

みんなの力で

佐々木 均

撮影場所：宮城県東松島市

東松島市で5月に行われる年に一度のこいのぼり、全国から集まったこい。感謝、感謝、みんなで力を合わせて上げていました。

入賞

全線復旧

菅野 照晃

撮影場所：岩手県釜石市

震災直後の被災状況を見て、復旧は何十年も先になるだろうと思われた三陸鉄道が、3年で全線復旧の日を迎えた。
この日の朝、南リアス線の唐丹駅付近へ行き、満員の一番列車を見送った。

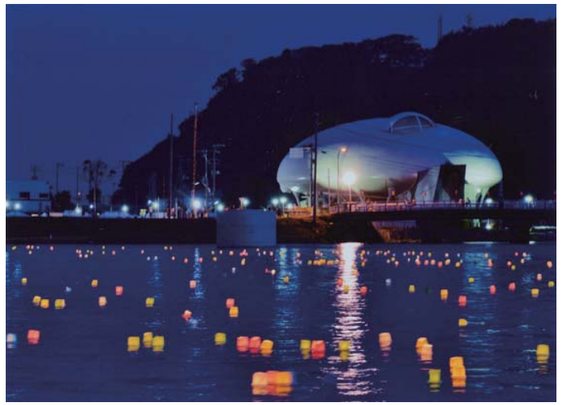
入賞

希望の橋

村上 淳

撮影場所：宮城県気仙沼市

震災で外部との交通が遮断された気仙沼市大島に、待望の橋が仮設された。地元大島の人をはじめ、たくさんの人が見守る中、大型サルベージ船に運ばれていく希望の橋、大島出身の私も感慨がひとしおだった。一日でも早く通行できることを切に願っています。



入賞

薄暮を彩る

渡邊 興次

撮影場所：宮城県石巻市

薄暮の時間帯にこだわり、その色と灯籠の位置、ボリューム感に気を使いました。毎年のお祭りですが、やっと元にもどったような気がします。

入賞

紅葉を往く

太田 誉

撮影場所：岩手県宮古市

三陸沿岸復興道路の完成がいよいよ間近に迫った。小山や谷を削ったり、埋めたり。これまでの大工事を目の当りにして驚きと感動を受けることばかりだった。大型重機の力に依るところが大きいが、なかでもダンプトラックの活躍は素晴しいの一語につきる。そんなダンプトラックを紅葉をバックに捉えてみた。

入賞

毛嵐の海

遠藤 正弘

撮影場所：宮城県本吉郡南三陸町

志津川湾では今朝はマイナス10度まで気温が下がり、毛嵐が大発生して日の出と共に働く漁師さんの姿に感動を与えています。痛い寒い中気温に動じない姿が、東日本大震災から復興をとげた姿とダブって見えてきます。海は東日本大震災では大津波で牙をむいたが、漁師という海の仕事と向き合いながら自然の仕事と向き合う姿が心を打たれます。

入賞

明日又頑張ってネ

永盛 明夫

撮影場所：岩手県大船渡市

被災地は防災、減災の盛土、かさ上げが急ピッチで行なわれている。威力を発揮しているのは大量に投入された土木重機とダンプ。一日の作業を終えた重機等がヤードに戻りメンテナンスを受け明日に備える。月光の下、整列した重機群は頼もしく見える。

入賞

撤去OK、おねがいします

菊池 和弘

描いた場所：岩手県下閉伊郡山田町

2012.9月の山田湾でのスケッチである。当時、湾の一角に震災で被災した破船が集められていた光景である。何度か通いスケッチを重ねるうち9月中に解体と聞き制作を急いだ。題名は船体に書かれたコメントである。船主さんの色々な想いが伝わってくる。

入賞

美味い湯気 ーうまいゆげー

程島 萌々那

描いた場所：宮城県加美郡加美町

私は今年の2月に初めて大学の友達につられ宮城に行きました。震災の影響を受けていたときの友達の故郷、そこで開催されていた加美町の鍋まつり。辺り一帯に美味しい湯気を沸き立たせ、熱い汁を食べる人々、街が活気に満ちてる様子を体感しました。

入賞

さんま船出港

水野 貞一

撮影場所：岩手県大船渡市

8月17日大船渡市赤崎町、蛸の浦漁港から出港したさんま船。漁業復興にむけて力強さを感じさせる船出でした。

入賞

おかえり 福島の魚

三田村 佳穂

描いた場所：福島県西白河郡西郷村

近くのスーパーに、久しぶりに福島県で水揚げされた魚が販売されていました。震災後、全然みかけなかった福島の魚でしたが店頭に並んでいるマコガレイを見て、嬉しく思いました。

入賞

希望の一本松

山本 宙樹

撮影場所：福島県南相馬市

七回目の夏に初めて訪れました。七色の虹に希望を感じました。

入賞

静かな海

館崎 義政

描いた場所：岩手県宮古市

あの日から7年。
毎年、千葉から来る孫も高2になりました。孫はよく単車で来ましたが海岸をなんとか来た時です。私達よりショックと思いましたが、来ると港にいっています。出崎埠頭に出かけた時しばらく海を見ていた様子が絵になりそうなので、そっといそいでスケッチしました。何を思っていたのか?

入賞

漁港帰還に集う

柏舘 健

撮影場所：福島県双葉郡浪江町

帰還困難指定町であった浪江町の一部に住民の帰還が認められた本年、避難先から大漁旗を掲げて母港に帰還した漁船団。関係者や家族が港に集い喜びに会話が弾んでいました。これからがまた大変であろうが一歩づつ前に進んでほしいと願う。

入賞

今年もありがとう。

門林 泰志郎

撮影場所：福島県南相馬市

原町区萱浜も津波による多くの甚大な被害地域です。毎年行われる菜の花畑迷路。
これも地域の復興、団体の力。毎年の夢を有難う御座います。

宮城

応募作品

宮城県石巻市

宮城県仙台市

宮城県仙台市

宮城県石巻市

宮城県本吉郡南三陸町

宮城県気仙沼市

宮城県岩沼市

宮城県牡鹿郡女川町

宮城県亘理郡山元町

宮城県仙台市

宮城県牡鹿郡女川町

宮城県気仙沼市

宮城県東松島市

宮城県石巻市

宮城県石巻市

宮城県仙台市

宮城県気仙沼市

宮城県牡鹿郡女川町

宮城県石巻市

宮城県気仙沼市

宮城県亘理郡山元町

宮城県石巻市

宮城県本吉郡南三陸町

宮城県多賀城市

宮城県気仙沼市

宮城県東松島市

宮城県気仙沼市

宮城県東松島市

宮城県柴田郡柴田町

宮城県宮城郡松島町

宮城県塩竈市

宮城県仙台市

宮城県本吉郡南三陸町

宮城県名取市

宮城県多賀城市

宮城県牡鹿郡女川町

宮城県仙台市

宮城県本吉郡南三陸町

宮城県名取市

宮城県名取市

宮城県宮城郡松島町

宮城県石巻市

宮城県石巻市

宮城県宮城郡松島町

宮城県名取市

宮城県本吉郡南三陸町

宮城県本吉郡南三陸町

宮城県石巻市

宮城県石巻市

宮城県石巻市

宮城県宮城郡松島町

宮城県牡鹿郡女川町

宮城県東松島市

宮城県塩竈市

宮城県石巻市

宮城県本吉郡南三陸町

宮城県石巻市

宮城県仙台市

宮城県牡鹿郡女川町

宮城県牡鹿郡女川町

宮城県仙台市

宮城県宮城郡松島町

宮城県宮城郡松島町

宮城県本吉郡南三陸町

宮城県東松島市

岩手

応募作品

岩手県下閉伊郡山田町

岩手県陸前高田市

岩手県陸前高田市

岩手県陸前高田市

岩手県大船渡市

岩手県

岩手県上閉伊郡大槌町

岩手県宮古市

岩手県宮古市

岩手県上閉伊郡大槌町

岩手県下閉伊郡山田町

岩手県大船渡市

岩手県釜石市

岩手県大船渡市

岩手県釜石市

岩手県北上市

岩手県釜石市

岩手県下閉伊郡山田町

岩手県釜石市

岩手県宮古市

岩手県九戸郡野田村

岩手県上閉伊郡大槌町

岩手県宮古市

岩手県宮古市

岩手県大船渡市

岩手県大船渡市

岩手県釜石市

岩手県大船渡市

岩手県上閉伊郡大槌町

岩手県上閉伊郡大槌町

岩手県釜石市

岩手県陸前高田市

福島

応募作品

福島県いわき市

福島県いわき市

福島県いわき市

福島県南相馬市

福島県相馬市・相馬郡新地町

福島県相馬郡飯舘村

福島県いわき市

福島県会津若松市・大沼郡会津美里町

福島県南相馬市

福島県相馬郡飯舘村

福島県双葉郡楢葉町

福島県耶麻郡猪苗代町

福島県福島市

福島県南相馬市

福島県双葉郡川内村

福島県いわき市

福島県双葉郡富岡町

福島県福島市

福島県南相馬市

福島県郡山市

福島県福島市

福島県いわき市

福島県南相馬市

福島県いわき市

福島県南相馬市

福島県いわき市

福島県いわき市

福島県西白河郡西郷村

福島県いわき市

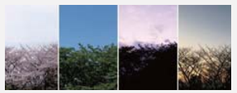
福島県南相馬市

その他

応募作品

千葉県成田市

山形県西村山郡大江町


千葉県松戸市

茨城県北茨城市

三重県四日市市

審査の風景

復興の歩み大賞
フォト
［再会］

西田司　もう今は使っていない小学校で、黒板をよく見ると、「また会おうね」と書いてあって、入れ替わりにこの場所に来てメッセージを書いた子どもたちが時間を動かしていたのだと想像できました。

池本洋一　子どもたちのメッセージから、「忘れない」想い出と暮らしの再建を感じさせる、前向きで明るい作品だと思いました。

池本 洋一氏

西田 司 氏

復興の歩み大賞
スケッチ
［共に歩む］

西田司　私は石巻市の復興に関わっていますが、町の中の復興がいい形で表現されて、また、絵がもたらす重さみたいな、アート感がいいなと思いました。

池邊このみ　描写と被写体がすごく合っていて、表現された雰囲気によって、このまま残していきたいという若い女性の思いが伝わりました。

復興の歩み賞
（池邊 このみ選）
［市街地一望］

池邊このみ　ここは防潮林として植樹したところで、「…市街地が一望できなくなる日が完全復興?」というのは松林になると市街地が見えなくなるという意味ですね。松の全面植樹が終わり、これから松が育って行くことで、まちが復興していくという姿を感じました。

池邊 このみ 氏

復興の歩み賞
（池本 洋一選）
［7年ぶりの歓声］

池本洋一　いわきを象徴するものの一つがフラガール。喜んでいる女子の姿から元気がもらえるのではないかと感じたことと、7年ぶりの海開きということで今年らしさを感じました。

池邊このみ　いわきの大事な象徴、それを感じられる作品で良かったと思います。

一之瀬 ちひろ氏

復興の歩み賞
（一之瀬 ちひろ選）
［海の方を見て何を思う］

一之瀬ちひろ　この写真に写っている子は5歳で、震災を知らないのですが、震災後時間を経て、緑に覆われた景色を見ている。撮っている人は両方の時間を一遍に見ているというのがとても写真的だと感じました。

復興の歩み賞
（キン・シオタニ選）
［一本まつとクレーン車］

キン･シオタニ　一本松よりもクレーン車の方が高く見えるというメッセージに大人には真似のできない子どもならではの感じ方がすごいと思いました。

キン・シオタニ氏

復興の歩み賞
（西田 司選）
［明日もまた「ココ」で］

西田司　「馬っ子山」は石巻にある「日和山」というすごく有名な山の一つ左側の山で、海沿いに向かって見下ろせます。そこから市内の風景を見ている作品なのですが、これからさらに復興していく風景と人の構図がすごくいいなと思いました。

フォト&スケッチ展の実施につきまして、応募者の皆様およびご協力いただいた皆様に、深くお礼申し上げます。

企画・発行　独立行政法人都市再生機構　技術・コスト管理部　都市再生設計課
震災復興支援室　企画課
〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町6-50-1 横浜アイランドタワー
制　　作　株式会社URリンケージ　都市・居住本部　企画設計部
2018 年 3 月発行

※本誌の写真および内容を無断で複写・転載することを禁じます。

http://www.ur-net.go.jp/saigai/